

令和 2 年 6 月 17 日現在

機関番号：23903

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2017～2019

課題番号：17K03588

研究課題名（和文）ベ平連/ジャテックの脱走米兵支援活動に関する国際関係史的研究

研究課題名（英文）The Japan Peace for Vietnam Committee (Beheiren), American deserters, and the US response, 1967-1970

研究代表者

平田 雅己（HIRATA, Masaki）

名古屋市立大学・大学院人間文化研究科・准教授

研究者番号：20287577

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,200,000円

研究成果の概要（和文）：本研究はベ平連/ジャテックの脱走米兵支援活動の国際的影響力を明らかにするため、解禁された米軍・米政府の公文書の内容にもとに関係者への聞き取り調査を広範に行いながら、先行研究にない国際関係史的視座の歴史研究の成果を生むことを目標としている。本研究費受給期間中の最大成果は、ベ平連/ジャテックの脱走米兵支援の起点となる1967年「イントレピッドの4人」脱走米兵事件の当事者3名への接触に成功したことである。2017年にクレイグ・アンダーソン、2019年にマイケル・リンドナーとジョン・バリラへの聞き取り調査を通じ、従来のベ平連/ジャテック目線の事件叙述を補完する脱走兵目線の物語が明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

米ソ冷戦終結後の日米軍事同盟の深化に伴いベトナム戦争時代以上に日本社会の軍事化傾向が強まっている。2011年の福島第一原発事故を契機として脱原発運動、安保法制反対運動、沖縄米軍基地反対運動など新たな時代の市民による平和運動の潮流が日本社会でみられ、ベ平連運動の遺産が再検討される機運にある。本研究は従来の先行研究にない本格的な国際関係史視座のベ平連研究の成果創出を目指すと同時に、国家に対する市民的不服従の是非、兵士の人権問題、力による平和主義の有効性、といった時代を超えた本質的な課題について現代を生きる日本人に問いかける社会的意義を有するものと考えている。

研究成果の概要（英文）：This historical research examines the international influence of Japan's Beheiren/JATEC activities supporting the American military desertion from 1967 to 1970 based upon obtained US declassified military documents. The most crucial findings during the 3 year funding period are related to the 1967 Intrepid Four incident as the first case that got the Beheiren members involved. Three out of the four former deserters were interviewed; Craig Anderson in Mexico in 2017, Michael Lindner in Sweden and John Barilla in Canada in 2019. Based upon their statements on the background behind their decision to jump ship and their lives after leaving Japan, a fresh picture of the incident was painted from the deserter's perspectives which prior research lacked.

研究分野：アメリカ政治外交史

キーワード：ベ平連 ジャテック 脱走米兵

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

フルブライト研究員プログラム助成金(平成22年~23年) 科研費「挑戦的萌芽研究」(平成26年~28年)の助成金などを活用し、本研究に必要な資料のおよそ8割程度を収集し、またベ平連/ジャテックに関わった日本人関係者への本格的な聞き取り調査に着手することができた。このたびの科研費「基盤研究C」(平成29年~31年)の受給を通じ、ベ平連/ジャテックに関わった日本人関係者への追加的な調査と共に外国人関係者を含めたさらに広範な調査・研究が可能になった。

2. 研究の目的

1965年から1974年まで存在した日本の代表的なベトナム反戦運動体「ベトナムに平和を!市民連合(以下:ベ平連)」の国際的影響力を実証する歴史研究を行うことが本研究の主目的である。特に1967年の「イントレピッドの4人」脱走米兵事件をきっかけにベ平連(後に下部組織であるジャテック)が展開した脱走米兵支援活動が米国政府に多大な影響を与えていたことを示唆する公文書の存在を申請者はこれまで数多く確認した。これら文書に記載された情報をもとにベ平連/ジャテックの元関係者への聞き取り調査を実施しながら、従来のベ平連研究に存在しなかった国際関係史的視座に基づく歴史研究の成果を創出することが本研究の最終目標である。

3. 研究の方法

本研究にとって重要な関係者への聞き取り調査と研究分野に関する情報収集のための国内外の出張のために本研究費の大半を使用した。この3年間の主な活動をまとめると以下のとおりになる。

1) 2017年10月下旬から11月上旬までの12日間にわたって、1967年「イントレピッドの4人」脱走米兵事件の当事者の一人であるクレイグ・アンダーソンを日本に招聘した事件50周年記念一般講演会を企画し、京都徳正寺(10月23日)、埼玉大学(10月27日)、立教大学共生社会研究センター(10月28日)、琉球大学(10月31日)の4か所で開催した。「イントレピッドの4人」に実際に接触した元ベ平連メンバーの小中陽太郎氏と室謙二氏、そして「イントレピッド4人の会」発起人の高橋武智氏と鈴木道彦氏への聞き取り調査も行った。

2) 2018年5月22日から24日にかけて米国インディアナ州ノートルダム大学で開催された米国退役軍人による反戦運動史に関する国際シンポジウム「良心の声」に参加し、現役及び退役軍人による反戦平和活動に関する最新の研究動向の把握に努めると同時に「イントレピッドの4人」脱走米兵事件の当事者の一人であるマイケル・リンドナーの情報を得ることに成功した。

3) 2018年11月6日から10日にかけて、米国カリフォルニア大学バークレー校図書館所蔵のパシフィック・カウンセリング・サービス関係の資料調査を行い、また日本で反戦米兵支援活動を行った元アメリカ人活動家バーバラ・バイへの2度目の聞き取り調査を行った。

4) 2019年3月15日から20日にかけて、スウェーデン・ストックホルムにて、マイケル・リンドナーへの聞き取り調査を初めて行い、脱走決断に至る背景や脱走後現在に至る生活について多くの情報を得ることができた。

5) 2019年4月19日から25日にかけて、カナダ・バンクーバーにて、ジョン・バリラへの聞き取り調査を初めて行い、脱走決断に至る背景や脱走後現在に至る生活について多くの情報を得ることができた。

6) 2019年11月14日から19日にかけて、元アメリカ人活動家バーバラ・バイへの3度目の聞き取り調査を行った。

4. 研究の成果

1) 2017年、「イントレピッドの4人」元脱走米兵のクレイグ・アンダーソンに接触し、2度の聞き取りと来日講演会時の証言を通じて彼の知られざる半生が明らかになった。立教大学講演会では元自衛官、韓国の良心的徴兵忌避者、日本の平和活動家ら多数参加し、兵士の視点から平和を考える視座の大切さ、ベ平連の運動精神の現代的価値、日米韓の市民による平和連帯の重要性を確認することができた。2018年、クレイグ・アンダーソンの脱走経緯についてまとめた論稿「クレイグ・アンダーソン 人間への脱走」(『追伸』創刊号2018年8月)を発表した。2019年、マイケル・リンドナーとジョン・バリラという新たに2名の元「イントレピッドの4人」脱走米兵の聞き取りにも成功し、脱走米兵目線の事件の姿や現代的文脈から事件を位置付ける研究上の示唆を数多く得ることができた。

2) ベ平連/ジャテックの活動に関わったアメリカ人に関する調査について、中でも1970年から1972年までの2年間、岩国や沖縄で反戦米兵支援活動に携わったアメリカ人女性、バーバラ・バイの計3回にわたる聞き取りから、彼女のライフヒストリーの全体がおよそ明らかになった。2019年12月1日、大阪大学で開催された地域ベ平連研究会にて「奉仕としてのベトナム反戦バーバラ・バイの日本・沖縄活動体験」という題目の中間報告を行った。

3) すでに入手した米軍資料の分析を通じ1968年12月に大阪で逮捕された脱走米兵クラレンス・アームステッドが実は陸軍のスパイ兵士であることを突き止め、当時アームステッドを匿い最も近い関係にあった元関西ベ平連メンバーの植野芳雄氏への聞き取りを前回の「挑戦的芳我研究」受給時に開始し、現在までに関係者数名の聞き取りに成功した。2018年、植野氏所蔵

文書の中にアームステッド本人からの手紙を確認することができた。当時一緒に行動していたもう一人の陸軍スパイ兵士の存在に関する言及もあり、彼らの行動を裏付ける貴重な資料となった。

以上

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 0件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 平田雅己	4. 巻 創刊号
2. 論文標題 クレイグ・アンダーソン 人間への脱走	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 追伸	6. 最初と最後の頁 18 - 35
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----